

2012年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

姫路市立夢前中学校

『学校や地域資源を活用した青少年健全育成プロジェクト』

1. 活動・研究の目的

平成22年度(2010年度)に「学校や地域資源を活用した青少年健全育成プロジェクト」を立ち上げ、3年が経過する。この取り組みは、本校区内小・中学校、地域の各種団体、兵庫県警察本部、神戸大学大学院、姫路市教育委員会等の関係諸機関が連携し、児童・生徒が自己指導能力を高め、よりよく生きていく力を身につけることを目的としている。

平成21年12月、神戸大学大学院による全校生徒への調査が実施された。調査結果では、これまでに飲酒を行ったことがあるという割合（生涯飲酒経験率）は、学年が上がるにつれ増加しており、第3学年では、男子は62%を超えており、女子においても56%以上と過半数を超えていた。

飲酒・喫煙は重大な問題行動や危険行動の入口となるため、これを回避させる必要がある。そして、自己指導能力を高揚させ、よりよく生きる力を身に付けさせるために、未成年者の飲酒防止に関する取り組みを地域ぐるみで行うことを学校・地域・関係機関の共通の目標にし、以下の3つの取り組みを実践した。

また、本校区は、これらの取り組みと成果を、姫路市の小中一貫教育において重視している「人間関係力」を培う1つの柱である開発的・予防的生徒指導として、市内の小・中学校に発信している。

2. 実施内容

(1) ライフスキル教育からのアプローチ

神戸大学大学院の指導助言を受け、ライフスキル教育プログラムの授業を年間11～15時間行った。ライフスキル教育プログラムでは、健全な自尊心を高揚させることを目指した。この健全な自尊心は、思春期において低下していくといわれている。低下によって、人に流されたり、現実から逃れようとしたりするなど、問題行動・危険行動に気持ちが向く可能性が高い。

ライフスキル教育の授業において、「対人関係スキル」、「意志決定スキル」、「目標設定スキル」、「ストレス対処スキル」、「セルフエスティーム形成スキル」を学習させた。この5つのスキルを関連させながら生徒に身に付けさせ、そのスキルを実生活で役立てることにより、セルフエスティーム（健全な自尊心）が維持・高揚される。これが、授業が担う大きな役割であった。

飲酒防止に関するライフスキル教育の授業においては、「対人関係スキル」において、飲酒の誘いを断る力を身につけさせるため、飲酒喫煙が未成年者に与える身体的・社会的悪影響を学ばせ、誘いを断るコミュニケーションのとり方

を練習させた。第2学年のロールプレイを活用した『飲酒の誘いを断る』学習では、保護者、地域住民が各教室で酒の誘い役として参加した。「意志決定スキル」で学習した「メディアから受ける影響」にも応用させ、さらに酒類の広告を分析させ、その広告がねらいとしているイメージやテクニックを考えさせた。

全教職員が、授業の実践力や理論の理解を深め、授業の質を追求するために、研修会やワークショップに参加し、本校では公開授業や研究授業を実施した。

(2) 地域体験交流活動からのアプローチ

地域との協働事業や福祉施設でのボランティア体験、農作物栽培を地域住民と共同作業するなど多くの体験交流の機会を設けた。これらの活動は、生徒に成就感・達成感・自己有用感を実感する機会となり、地域との絆を感じさせる活動となった。

地域住民にとっては、学校は、どのようなことを指導し、どのような生徒がいるかなどを知る機会となり、これにより、地域と学校の連携やつながりが深まり、地域環境の整備などにおいても支援体制が構築された。

(3) 講座・啓発活動からのアプローチ

未成年者飲酒防止キャンペーン

生徒会役員を中心に、全校生徒に対して未成年者の飲酒防止に関わる啓発をした。生徒に未成年者飲酒防止を呼びかけたポスターを募集した。生徒会を中心にポスターを地域の掲示板や商店に貼ってもらい、地域全体に「未成年者に飲酒をさせない」意識を高める取り組みを行った。キャンペーン活動は、年間3回行い、第1回はゴールデンウィーク前、第2回は秋祭りの前、第3回は年末に実施した。年末のキャンペーンには、警察官、校区少年補導委員、姫路市教育委員会だけでなく、校区子ども見守り隊、姫路市危機管理室の協力も得、地域ぐるみで健全な環境作りの輪を広げた。

警察・関係機関による講座

警察や関係者を講師に、未成年者の飲酒をはじめとす

る危険行動の現状やその危険行動がもたらす個人や周囲への影響、法令等に関する講座を全校生徒対象に行った。

また、自他を大切にすることを育むという視点から「命の大切さを学ぶ授業」として第3学年生徒対象の講座や全校生徒対象の講座を設けた。



屋台蔵の啓発ポスター

3. 成果と課題

平成22年度からの活動により、生徒・保護者・地域が未成年者の飲酒防止に関心を持ち、地域ぐるみで青少年を育てようとする輪が広がった。

生徒は、メディアから受ける影響を分析できる自信がついたと自覚している。学校が楽しいと感じている生徒、本校を誇りに思う生徒が多いことも、これらの取り組み

みを積み重ねた結果といえる。友人からの飲酒の誘いに対して、学習直後と学習後から期間があいた場合では、誘いを断る自信の部分で違いがあることがわかった。そのためにも未成年者の飲酒防止をはじめ、規範意識を維持・高揚させるため、定期的な学習・訓練が必要である。生徒の学習を深め、定着させるために、教職員のライフスキル教育に関する指導力を向上させる研修も必要である。今後も地域と連携した健全育成を強化し、未成年者の飲酒への意識や危険行動を抑止する環境づくりをすすめることも継続していく。